

そらのともだち



あさひ あすか

トラトが くさはらにいと、 そらからいとが たれているのをみつけました。

いとのおきには てがみついています。

「わたしの おもだち いませんか？」

トラトは いとのおきに のぼってみることにしました。

いとをさわってみると、 とってもふわふわしていて すこしうかんでいます。

ためしに からだに まきつけてみました。

すると、 からだが ふんわりうかびました。

トラトは いとだまをつくりながら どんどんそらのうへへと のぼっていきました。



たどりついたところは くものうえ。そこには ひとりの しょうじょがいました。

ねっしんに あみものをしています。

「こんにちは」

トラトは そっところえをかけました。

びくっとした しょうじょのせなか。おそるおそる トラトのほうに ふりむきました。

てがみを もっているトラトをみて、 しょうじょはいいました。

「わたしの ともだち？」

「そうだよ。 ぼくはきみの ともだちになりきたんだ」

「ぼくのなまえは トラト。 きみのなまえは？」

「わたしのなまえは シロカ」

しょうじょは おそるおそるいいました。

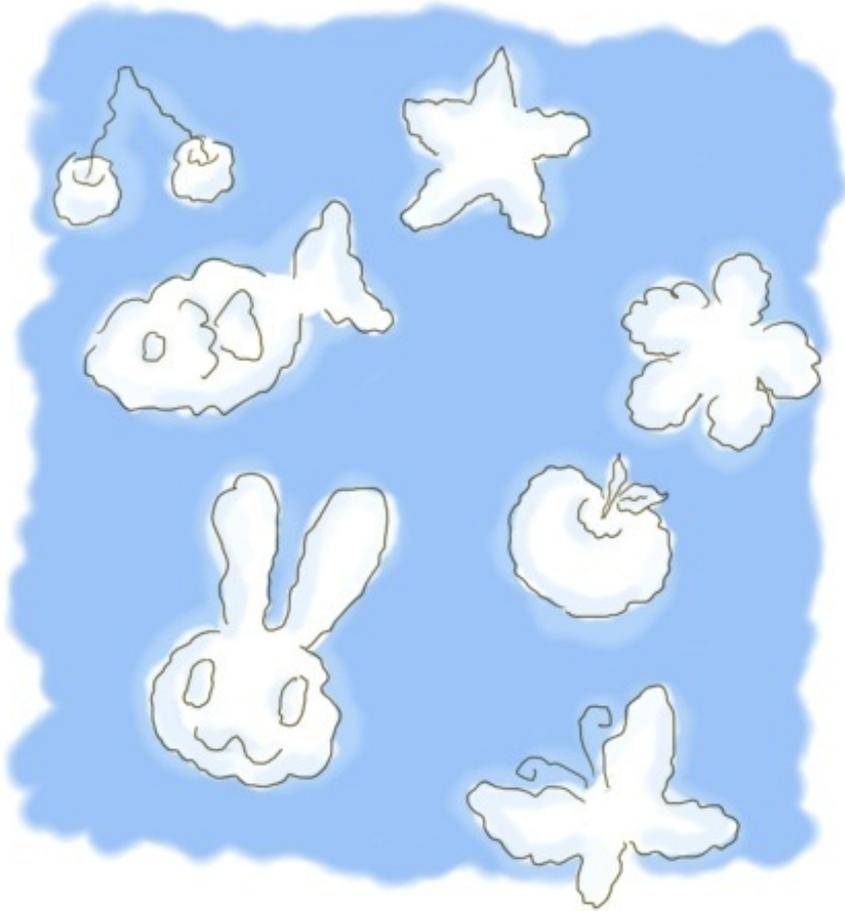


「シロカ。 あみものを しているの？」

「うん。 わたしは くものいとしょくにん。 いろんなかたちの くもをつくるのが しごとなの」

あたりを みまわしてみると、 いろんなかたちの くもがうかんでいました。

さかな、 りんご、 ほし、 うさぎ、 はな、 たくさんたくさん。



「いまは どんなかたちの くもをあんでいるの？」

「クジラよ」

かわいらしい クジラのかたちのくもが できていました。

あとすこしで できあがりそうです。

「シロカが くもをあんでいるところ、 みていていいかな？」

「うん」

シロカは ほほをそめていました。

もくもくと あみものをする シロカ。

それを たのしそうにみつめる トラト。

しずかなときが ながれていきました。



「できた」

シロカは てをとめました。

「かわいい クジラくもだね」

ぬいぐるみのような かわいらしいくもです。

「しあげがあるの」

シロカは そういうと、 ちいさなこえで うたをうたいました。

「くもくもくもく もくもくも ふわふわふわ わんわんわん わんわんわん

おおきなあつたか くもになあれ」

すると、 ちいさなクジラくもが どんどんおおきくなっていきます。

あつというまに ほんもののクジラのように おおきくなりました。

「うわあ——！！ すごいよ！！ シロカ」

トラトは ほほをそめていいました。

シロカは はずかしそうに ほほをそめて したをむきました。



「シロカは いろんないきもののことを 知っているんだね」

すると、 シロカは かなしそうに つぶやきました。

「だけど、 わたしは ほんものの かれらをみたことはないの。

ぜんぶ、 おとうさんおかあさんに おしえてもらったの」

「シロカの おとうさんおかあさんは どこにいるの？」

「ここから とおくはなれたくものうえで、 おとおさんもおかあさんも それぞれくもをつくっているの。

みんな ひとりぐらし……。 だから、 さみしかった……」

トラトは だまって きいていました。

そして、 シロカの かおをじっとみつめて いいました。

「ぼくが まいにちあそびにいく くさはらに、 かわいいはなが さいているんだ。

シロカ。 いっしょに みにいこう」

シロカは びっくりしていいました。

「ちじょうにおりるなんて 怖い……。 わたしは うまれてからずっと、 くものうえで くらしてきたから」

シロカは じぶんのりょうてを つよくにぎりしめていました。



「シロカ。 ぼくがいっしょにいるよ。 だいじょうぶ。 こわくなんてない。

きみに ほんものの はなをみせたいんだ」

トラトは ちからづよく、 にっこりと ほほえみながらいいました。

みつめあう ふたり。

やさしいかぜが、 ふわりと ながれていきました。

「わたし、 はながみたい。 ほんものの、 はながみたい」

トラトは シロカのををにぎって ほほえみました。

「いっしょにいこう」



シロカは ふたりがのれる くもをあみました。

トラトが よろこんでくれた、 あの クジラクもです。

トラトが クジラクもにのり、 シロカに てをさしだしました。

シロカは ぎゅっとめをつむり、 トラトの てをにぎりました。



クジラクモは うみをおよぐように、 ゆったりと すすんでいきます。

シロカは トラトのてを つよくにぎりしめ、 ぎゅっとめを つむっていました。



「シロカ。 さあ、 ついたよ」

ほんわかと あたたかいかぜが くすぐったく シロカのほほをなでました。

シロカは おそろおそろ めをあけました。

みどり みどり みどり

みどりいろの くさはら。

くさはらに あしをおろしました。

なんてくすぐったくて やさしいんだろう。

シロカは めになみだを ためていました。



「シロカ。 こっちをみて」

トラトのこえに ふりむくと そこには、 ちいさくてかわいい はなが。

「きれい」

シロカは ぽろぽろと なみだをながしました。

そして、 はなのように やさしくほほえみました。

トラトは シロカをみつめて、 にっこり ほほえみました。



シロカはきょうも もくもくと くもをあんでいます。

でも ひとりでは ありません。

となりには トラトがいます。

トラトは シロカがあんでくれた クジラクもにのって、 シロカにあいにきます。

そして、 シロカも トラトといっしょに ちじょうにあそびにいきます。

ふたりは これからも、 ずっとずっと なかよしです。





おわり